

発表要旨記入要領

《記入の前に必ずお読み下さい。》

提出していただく発表要旨データは必ず下記のことに従い正確に入力ください。

見本を添付しますので参考にしてください。

【演題名・発表者・所属】

- 1 発表者は、発表者氏名の前に○印を付し、共同研究者全員の氏名の右肩に所属を示すために下記例のように番号を付してください。共同研究者の所属が複数にわたるときは、1)、2)、3)・・・の順に付してください。Wordにおいて右肩に番号を付す方法が不明な場合は、[F1]キーを押して表示されるWordヘルプにおいて〔上付き〕で検索してください。

例；○山田太郎¹⁾田中一郎²⁾鈴木花子¹⁾²⁾高橋祐司³⁾石川五郎⁴⁾

- 2 発表者所属（勤務先名）は、発表者および共同研究者の右肩に付した番号を下記例のように記入し所属を入れてください。なお、所属（勤務先名）の略号については別紙例にならって記入してください。住所を記入する必要はありません。枠内に収まらないときは、できるだけ省略してください。

例；1)東京都青山家保、2)青山動物病院・東京都、3)東大・4)動衛研○○領域

- 3 以上の演題名等は、発表要旨（データ様式）の設定を変更したりしないように収めてください。

【本文】

- 1 本文の記述方法は、次の見出し区分を参考としてください。
 - (1) 記述の見出しは、〔はじめに〕、〔材料および方法〕、〔成績および考察〕等の表示をもって区分してください。
 - (2) 細分化して項目ごとに記述する場合は、両カッコを用いて(1)(2)(3)等としてください。そのあとの区分は、ア. イ. ウ.、次は①②③としてください。
- 2 図・表・写真等は添付しないでください。
- 3 以上の本文は、発表要旨（データ様式）の設定を変更したりしないように収めてください。

《注》全角 1,000 字を超える場合や様式に合致していない場合等は、再度書き直して提出していただくこととなりますので、ご注意ください。

令和4年度獣医学術九州地区学会発表申込書

() 日本産業動物獣医学会	() 日本小動物獣医学会	() 日本獣医公衆衛生学会		
() 臨床分野 () 衛生分野				
() P C () CD-R	PC持込のみ	CD-Rのみ		
※発表番号	演題名			
発表者および共同研究者全員 氏名、フリガナ、会員番号、会員区分（注1）を記入下さい。 また、発表者は氏名の前に“○”印を付記し、生年月日を記入下さい。				
フリガナ				
氏名				
生年月日（発表者のみ）				
会員番号				
会員区分（注2）	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)
フリガナ				
氏名				
生年月日（発表者のみ）				
会員番号				
会員区分（注2）	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)
発表者の所属（勤務先名等）				
申込者連絡先（連絡先が勤務先住所の場合は、必ずその名称も記入してください。）				
・氏名 様				

・連絡先				
名称 _____				
住所 〒 _____				

TEL () - () - ()				
内線 ()				
FAX () - () - ()				
E-mail ()				

（注1）会員番号は、獣医師免許登録番号です。

（注2）地方獣医師会に所属していない非会員（区分：(ア)非会員獣医師、(イ)学生・大学院生等賛助会員、(ウ)(イ)以外の学生・大学院生等、(エ)日本獣医師会直接の個人賛助会員及び外国会員）の方々につきましては、会員区分欄の記号を○で囲んでください。

※学会事務局使用欄					
	<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">登録の確認</td> <td style="padding: 5px;">会員の確認</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 40px;"></td> <td style="width: 50px; height: 40px;"></td> </tr> </table>	登録の確認	会員の確認		
登録の確認	会員の確認				

令和4年度獣医学術九州地区学会発表申込書（記入例）

<input type="checkbox"/> 日本産業動物獣医学会	<input type="checkbox"/> 日本小動物獣医学会	<input type="checkbox"/> 日本獣医公衆衛生学会		
<input type="checkbox"/> 臨床分野 <input type="checkbox"/> 衛生分野				
<input type="checkbox"/> P C <input type="checkbox"/> CD-R	P C持込みのみ	CD-Rのみ		
※発表番号	演題名 神経症状を呈し急死した仔豚の病理学的検索			
発表者および共同研究者全員 氏名、フリガナ、会員番号、会員区分（注1）を記入下さい。 また、発表者は氏名の前に“○”印を付記し、生年月日を記入下さい。				
フリガナ	キョウシュウ タロウ	キョウシュウ ハコ	ジュウイ タロウ	ジュウイ ハコ
氏名	○九州 太郎	九州 花子	獣医 太郎	獣医 花子
生年月日（発表者のみ）	1980年1月1日			
会員番号	20210	20123	25010	25013
会員区分（注2）	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)
フリガナ				
氏名				
生年月日（発表者のみ）				
会員番号				
会員区分（注2）	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)	(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)
発表者の所属（勤務先名等） ○○県○○○家畜保健衛生所				
申込者連絡先（連絡先が勤務先住所の場合は、必ずその名称も記入してください。）				
・氏名 九州 太郎				
・連絡先				
名称 ○○県○○○家畜保健衛生所				
住所 〒999-9999				
○○県○○市○○町○○丁目○○番地				
TEL (0985) - (1234) - (5678) 内線 (222)				
FAX (0985) - (1234) - (8765)				
E-mail (kyu.jyu@ocn.com)				

（注1）会員番号は、獣医師免許登録番号です。

（注2）地方獣医師会に所属していない非会員（区分：(ア)非会員獣医師、(イ)学生・大学院生等賛助会員、(ウ)(イ)以外の学生・大学院生等、(エ)日本獣医師会直接の個人賛助会員及び外国会員）の方々につきましては、会員区分欄の記号を○で囲んでください。

※学会事務局使用欄

登録の確認	会員の確認

◎発表者所属（勤務先名）は下記右側を参考に略して記述ください。

- ・北海道大学 →北 大
- ・酪農学園大学 →酪農大
- ・帯広畜産大学→帯畜大
- ・北里大学 →北里大
- ・岩手大学 →岩 大
- ・岐阜大学 →岐阜大
- ・日本獣医生命科学大学→日獣大
- ・東京大学 →東 大
- ・日本大学 →日 大
- ・東京農工大学→農工大
- ・麻布大学 →麻布大
- ・鳥取大学 →鳥取大
- ・山口大学 →山口大
- ・宮崎大学 →宮崎大
- ・鹿児島大学 →鹿 大
- ・大阪府立大学→大阪府大
- ・開業の場合 --→〇〇動物病院・〇〇県
- ・〇〇県〇〇部〇〇課→〇〇県〇〇課
- ・株式会社 --→（株）
- ・〇〇県〇〇保健所 →〇〇県〇〇保
- ・〇〇県〇〇食肉衛生検査所 →〇〇県〇〇食肉衛検
- ・農水省動物検疫所〇〇支所 →動検〇〇支所
- ・（国研）農研動物衛生研究部門〇〇支所 →動衛研〇〇支所
- ・〇〇県農業共済組合連合会 →〇〇県農共連
- ・〇〇県農業共済組合 →〇〇県農共組
- ・〇〇県〇〇家畜保健衛生所→〇〇県〇〇家保
- ・〇〇県衛生研究所 →〇〇県衛研
- ・〇〇県農業共済組合連合会〇〇家畜診療所 →〇〇県農共連家畜診

用語集

1 用語等

- ・ 薬品・機器名は、原則として一般名または局方名とする (商品名、メーカー等は欄外に記載する)。
- ・ 動植物名などは、以下のとおりとする。
人、馬、牛、豚、めん羊、山羊、犬、猫、兎、鶏、あひる、がちょう、七面鳥、うずら、みつばち
上記以外は、原則としてカタカナとする。
例：サル、タヌキ、キツネ、カモシカ、シチメンチョウ、ブリ、ハエ、フスマ、カブ、トウモロコシ、ジャガイモ、ダイズ、アマニ粕など
- ・ “～以下に報告する” 式の表現は用いないこととする（特に緒言において）。
- ・ 国名は原則としてカタカナ表記とする（例外：米国、英国は漢字表記）。
- ・ 略称は、一般に広く用いられているものを用い、それ以外はわかりやすい略称を用いる。略称を用いる場合は、最初に用いた単語に略称の表示を行い、以後は略称で統一する。
標題、見出しでは、原則として略称は用いない、ただし、慣用的に用いられているものについては、この限りではない。
- ・ 特に表中においては、同様を意味する略称「R」は、用いない。かならず同じ字句を繰り返して記述する。
- ・ その他の字句については、統一を保つため、下記の参考事例を参照のこと。

例：1 専門的用語や記号等

「・」（ナカテン）は原則として用いない（犬・猫の→犬と猫の）

オス♂、メス♀または牡、牝→雄、雌 2才→2歳

年令→年齢 仔牛→子牛 胎児→胎子（ただし、人の場合は胎児）

・ タイトル「…について」の「について」は省く。

・ すべて西暦で書く。（科学論文の通則）

・ ××管内 — ××地区（内）

第4胃→第四胃

心、肝→心臓、肝臓（ただし肺→肺）

血液生化学的→血液化学的

生理食塩水→生理食塩液

エックス線→X線

H・E染色、H—E染色→HE染色

連鎖状球菌、連鎖球菌→レンサ球菌 ぶどう状球菌、ぶどう球菌→ブドウ球菌

他の注意すべき専門用語（下線部のように用いる）

まん延

奇形

咀 しゃく

歩様 そうろう

てんかん

うっ血

び慢性

線維素

浸潤

浸出液

混濁

希積

濾過・ろ過（口過は用いない）

回虫症

搔痒症

じん麻疹

頸または頸部

貯留

沈殿

蛋白質

超音波 検査法

2 その他の用語

我国→わが国	我々→われわれ（または演者ら）
佐藤等は～→佐藤らは～	1ヶ所、1箇所→1カ所
～の一例→～の1例	～の1つ→～の一つ
20日齢～30日齢→20～30日齢	1980年から1990年→1980～1990年
AよりB→AからB（“～より”は比較する場合のみ用いる）	
一方→いっぽう、（接続詞として用いるとき）→その後、また一方になった。	
従って、→したがって、（接続詞として用いるとき）	
更に、→さらに、	例えば、→たとえば、
即ち、→すなわち、	或は、→あるいは、
但し、→ただし、	
又→また	及び→および（接続詞として用いるとき）
並びに→ならびに	若しくは→もしくは
～の通り→～のとおり	～の様に→～のように
殆ど→ほとんど	全く→まったく
総て、全て→すべて	未だ、今だ→いまだ
僅かに→わずかに	極めて→きわめて
至って→いたって	とくに→特に
概ね→おおむね	直ちに→ただちに
共に→ともに	充分に→十分に
何れ→いずれ	既に→すでに
主に→おもに	その外→そのほか
そのた→その他	～に伴って→～にともなって
～毎に→～ごとに	～の如く→～のように
～する事→～すること	～と言うこと→～ということ
～に過ぎない→～にすぎない	～した方がよい→～したほうがよい
～が見られた→～がみられた	～され易い→～されやすい
～では無い→～ではない	～より先に→～よりさきに
～に拘わらず、関わらず→～にかかわらず	～の限り→～のかぎり
～と併せて→～にあわせて	～する余り→～するあまり
行なった→行った	起った→起こった
終る→終わる	挙げる→あげる
基づく→基づく	行って来た→行ってきた
出来る→できる	

3 イタリックで表記する用語

in vivo , *in vitro* 等のラテン語系副詞および慣用句はイタリックで表記する。
学名の属名と種小名もイタリックで表記する。
（ただし、学名のカタカナ表記は認めない。）